

特集

俳句が育てる岡垣愛

ふるさと

町内のすべての小学校で行われている俳句学習。18年間続くこの学習に、広報担当が密着しました。子どもたちの作品や俳句の魅力を紹介します。

問い合わせ 広報情報課



①



②



③



④

6年生の教室で開かれる俳句会

「イチヨウが黄色いじゅうたんのように見える様子が伝わってきて、良いと思います」。教室から聞こえてくる子どもたちの俳句の感想。岡垣町の小学6年生は、俳句の体験学習を行っています。講師を務めるのは県俳句協会会長の岸原清行さん。それぞれの小学校で年2回、俳句を教えています。

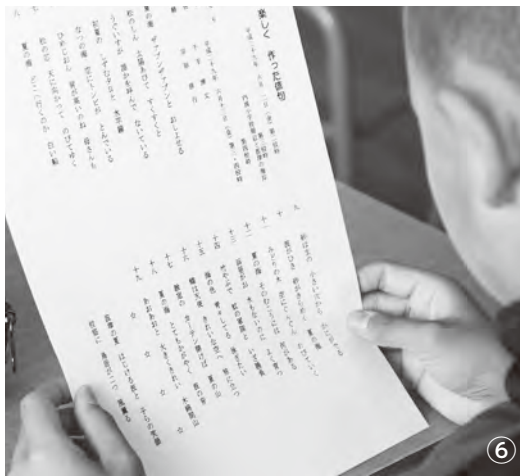
1回目は俳句づくり。教室で俳句の歴史や作り方などを学んだ後、俳句に欠かせない季語を探しに校外を散策する「吟行」をします。通学路や近くの田畑、海辺、史跡などを巡り、思い思いに俳句を作ります。2回目の学習はクラスごと





⑤

①②③⑦学校周辺を散策する吟行。いつも見る景色には驚くほどたくさんの季語が隠れていた
④岸原さんがさまざまな作品を例に俳句の作り方を説明⑤⑥クラス全員の俳句の中から自分が好きな作品を選び、良いところを一人ひとり発表



⑥



⑦

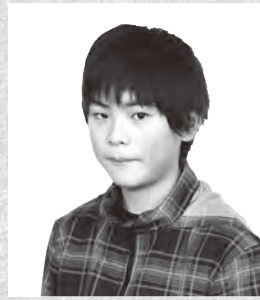
の俳句会。全員の俳句の中から一人ひとりがお気に入りの句を選び、その句から感じ取れることや選んだ理由などを発表します。

18年の歴史を持つ体験学習 きっかけはテレビ番組

この俳句学習の始まりは平成12年。当時、教育長が子どもたちに豊かな感性や美しい言葉を身に付けさせる方法を模索していました。そんなとき、読者から寄せられた俳句を岸原さんが紹介するNHKのテレビ番組に偶然出会いました。小学生の作品が詠まれたとき「俳句は子どもたちの素直な感性や豊かな心を育てるために効果的だ」と考え、岸原さんに体験学習をお願いしました。

日本の伝統文化が 心の成長につながっている

「五・七・五」のリズムで表現する俳句は、世界で最も短く美しい詩といわれています。俳句学習では、季節を感じ、言葉で表現することの面白さや、同じ景色を見ても一人ひとり感じ方が違うことなどを学びます。これらは、子どもたちの俳句への関心を高めるだけでなく、相手を思いやる心や素直な心を育むことにもつながっています。こうした成果から、岡垣町では18年にわたり、俳句の体験学習が続けられています。



うぐいすが誰かを呼んで鳴いている

内浦小学校 春日真琴

教室のカーテン開けば夏の山

内浦小学校 田中夢輝

ナナフシが観音様に会いに行く

海老津小学校 詫広昊輝

若竹よ雲をつらぬけ高くなれ

海老津小学校 篠原梓沙

白い雲桜紅葉にすけている

戸切小学校 田中竣士

自然豊かな内浦では、鳥や虫の鳴き声がよく聞こえます。ウグイスが何度も鳴いているのを聞いて、誰かを呼んでいるのかなと思いました。

教室のカーテンを開くと、きれいな木綿山が見えました。空が青く晴れ渡った夏の日だったので、あえて「夏の山」と表現しました。

野間山にある子安観音寺でナナフシを見つけました。そのナナフシは、観音様に会いに来ているように見えたので、この句を詠みました。

とても背の高い若竹を見つけたときに、今でも十分立派だけど、これからもっと、空を貫くような高さまで伸びてほしいと思いました。

目の前にある真っ白な雲が、紅葉しているようなサクラモミジの葉っぱに透き通って見えて、自然豊かな戸切ならではの景色だと思いました。

素直な感性が光る 子どもたちの作品



山の中古墳を包む 黄葉もみぢかな
吉木小学校 小長美優



かまきりや冷たい水に何を見る
吉木小学校 岩崎晃太郎



かげぼうしみんなうつって秋の川
山田小学校 吉田美穂



晴れの日に落葉でそまる 通学路
山田小学校 赤塚陽仁はると



蟻地獄 水神様のそばにある
戸切小学校 古閑愛結めぐむ

門田古墳の周りに、モミジの葉っぱがたくさん積もっていて、古墳を包んでいるように見えました。その光景はとてもきれいでした。

門田古墳の近くの池にある木に、カマキリが止まっています。全く動かなかつたので、何を見ているのか気になってこの句を詠みました。

矢矧やはぎ川の前をみんな通ったとき、水面にかげぼうしが写っていました。日ごろから仲良しですが、影を見ても仲の良さを感じました。

晴れの日に学校で、赤色や黄色、オレンジ色の落ち葉が太陽に照らされて美しく輝いているのを見て、今日も頑張ろうと思いました。

水神様の近くに蟻地獄がありました。神様と蟻地獄は正対のものなのに、近くにあったのでとても不思議だと思いました。



▲これまでの俳句集

作品は1冊の俳句集に
上の俳句は、今年の小学6年生の作品の中から、岸原さんが今回の特集のために選びました。子どもたちは、目で見て感じた素直な思いを、17音で表しています。1年間を通して俳句学習を行うため、吟行をする季節や場所が学校ごとに異なります。そのため、学校ごとに四季折々の特色ある俳句ができあがります。
6年生が作った俳句は、5校分すべて1冊の俳句集にまとめられ、卒業記念品として贈られます。岡垣町ならではの貴重な体験は、思い出として形に残っていくのです。

体験学習の後も 俳句とつながっている



季語を覚えられることが魅力です

平成 29 年度^{ろざんそう}櫛山荘子ども俳句大会で特別賞を受賞した俳句は、母と沖ノ島がきれいに見える宗像の海岸に行ったときに作りました。隣町にある沖ノ島が世界遺産に登録されたことは、福岡県の誇りだと思います。今回、大賞をとることはできなかったけど、特別賞に選ばれてとてもうれしいです。

僕は、小学6年生のときに岸原さんの俳句教室を受けた後、3回ほど俳誌「青嶺」^{あおね}に投稿したことがあります。俳句は、実際に吟行したり、インターネットや本で調べたりして、季語を覚えられることが面白いです。調べてみると、季語は思った以上にたくさんあります。

今は部活動などであまり時間がありませんが、吟行などをする時間ができたときは、また俳句を作りたいです。



岡垣中学校1年 占部裕太郎くん

平成 29 年度^{ろざんそう}櫛山荘子ども俳句大会で特別賞「北九州俳句協会会長賞」を受賞。

【作品】夏の海 遠くに見えるは おきのしま

県内でも群を抜いた 成績を収める岡垣町の作品

岸原さんは、俳誌「青嶺」^{あおね}の主宰を務めています。俳句学習の最後に「これを機に、俳句を作ったときはぜひ投稿してくださいね」と声を掛けると、子どもたちは自ら作品を投稿。中には3年間、毎月投稿していた人もいます。

俳句とのつながりは、小学校を卒業しても続いています。有名な俳人を生み出している北九州市では「櫛山荘子ども俳句大会」という大きな大会が催されています。また、ふくおか県民俳句大会も催されるなど、県内では俳句を楽しむ環境が充実。子どもたちは、さまざまな大会に応募しています。

その結果、岡垣町の子どもの作品が多数入賞。俳句学習で培った感性で、すばらしい作品を生み出し、高い評価を得ています。今年も平成29年度^{ろざんそう}櫛山荘子ども俳句大会で特別賞を受賞した俳句は、母と沖ノ島がきれいに見える宗像の海岸に行ったときに作りました。



岸原清行さん

俳誌「青嶺」を主宰しながら、福岡県俳句協会会長、NHK北九州文化センターほか各地で講師を務める。今年11月に行われた福岡県文化団体連合会創立25周年記念式典では、同会25年目にして2人目となる「文化功労特別大賞」を受賞。

素直な発想に心を動かされます

小学校の俳句学習では、どの子どももみんないきいきとしています。いつも見ている学校周辺の景色も、改めて目を向けると多くの発見があるようで、素直な気持ちをそのまま表現した俳句には、いつも心を動かされます。また、俳句は勉強が得意な子が良い句をつくるとは限りません。これも、楽しく取り組める魅力の一つです。

毎年俳句学習を終えると、子どもたちから感想文をもらっています。「俳句は楽しくないと思っていたけど、体験してみたらとても楽しかった」と書かれていたときは、本当にうれしい

気持ちになりました。こうした声が、私の活動の励みになります。

子どもたちには、この学習を通してふるさとの良さや魅力に気付いてほしいです。古くからの歴史や自然あふれる岡垣町だからこそ、良い俳句が生まれると思います。また、将来町を離れたとしても、ふるさが懐かしくなったときには、卒業記念の俳句集を開いてほしいです。きっと、当時のことを思い出させてくれるでしょう。この学習を忘れず、これからも美しい言葉や豊かな感情を大切にしてください。

「俳句」が ふるさを見つめる 一つのきっかけに



句大会で、岡垣町の中学生が特別賞「北九州俳句協会会長賞」を受賞しています。

ユネスコ登録に向けた動きも始まっている

世界中から認められ、愛されている俳句は、現在ユネスコ無形文化遺産登録を目指す取り組みが進められています。俳句が無形文化遺産に登録されると、俳句そのものはもちろん、岡垣町の俳句学習や子どもたちが培った感性は、さらに価値あるものとなるでしょう。

いくつになっても 楽しむことができる俳句

俳句は、特別な道具や専門の知識を必要としません。自然の中で季節の移ろいに心を寄せ、感じたことを表現するもので、子どもから大人まで親しめる文学です。小学校での学習だけでなく、町内には多くの俳句教室があります。広報おかがき25日号の町民ふれあい広場にも、住民の皆さんの作品が寄せられています。

これまで俳句を詠む機会がなかった人も、この機会に始めてみませんか。身近な場所であっても、きっとこれまでと違う新たな発見や感動が待っていると思います。俳句を通して、岡垣町が皆さんにとってかけがえのないふるさとなるよう願っています。